

令和元年度

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 太陽荘（花ユニット）		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵衛新田第5地割28番地2		
自己評価作成日	令和元年7月1日	評価結果市町村受理日	令和1年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=0372200410-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年8月21日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○現在60代から90代まで幅広い年齢層の方が暮しており、ご利用者一人ひとりのペースを大事にしたケアを実践できるように努めている。
○近隣の保育園や幼稚園、児童館との交流や地区の行事などを通して、地域との繋がりを深めるよう努力している。
○隔月での音楽療法や、季節ごとに行事を実施し、心身の活性化に繋げている。
○毎月、職員の知識や技術、教養を高めるよう、内部研修を行っている。
○職員のリフレッシュを目的に、長期休暇の促進や、時間での有給休暇を活用して子供のいる主婦層でも安心して働ける環境を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「人としての尊厳を守る」「共生・協働の精神」「自己実現への導き」の実現に向け、職員は、利用者の人権を尊重し、利用者と生活を共にし、利用者の能力を最大限に引き出すために工夫を凝らしている。事業所として、地域自治会との連携やボランティアの積極的受け入れなど、地域との日常的交流を行っている。職員の技術習得や最新情報の収集など、介護職員の資質の向上にも尽力している。昨年から3ユニットから2ユニットに規模を縮小し、現在16人の利用者に対し、これまで以上に充実した介護サービスを提供し、特に、利用者の心の声に耳を傾け、思いの実現に職員一丸となって支援し、また、生活の中での利用者自らの役割を作り出すなど、利用者が満足する良質な介護サービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に職員全員で理念の唱和を行っている。また、太陽荘独自の「和」を基調とした理念を見える所に掲示している。	理念は、職員入社時に事業所代表が詳細に説明しており、朝礼の際に、ユニット花と虹の職員が唱和することで、意識付けをしている。理念を具体的に実現するため、各ユニットの年次目標として、ユニット花は「お互いの良さを見つけて可能性をひろげよう」、虹は「嬉しい、楽しい、笑いあう時間」を掲げ、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の園児や学生など日常的に交流を行っている。近隣住民には太陽荘の行事の際はご案内し、参加して頂いている。	自治会(新田1区)に加入し、夏祭りに参加し文化祭には利用者の作品を出品するなど、地域と活発に交流している。毎年夏に開催している太陽祭では、さんさ踊りをし、屋台などを設け、近所の方々も参加している。幼稚園児・保育園児も継続的に来訪してくれている。職員から小学校に申し出し、4年生を対象としたサポーター養成講座を行い、認知症の周知に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場実習やボランティアなど受け入れている。また、地域の方々に認知症への理解を深めていただけるよう、認知症に関する講座等もひらいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員をはじめ、ご家族様にも参加を呼びかけ、2ヵ月に一度開催している。活動状況や課題等を報告し、指導をいただいている。その内容を職員と共有し、サービス向上に向けて話し合っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や自治会役員、民生委員、家族代表と事業所の社長、管理者、職員が出席している。駐在所員や消防署職員もゲストとして講話し、最近あった、地域のSOSネットワークでの警察の探索や役割の話は、貴重な情報として運営に役立てている。近隣家屋の火災の際の避難マニュアルを作成してはとの提案があり、各ユニットで話し合い避難経路の確認を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険担当者との関わりを通して相談や助言をいただき、運営方法やケアの向上に活かしている。	町長寿社会課の窓口にて、申請書類等を持参しながら相談を持ち掛け、助言を頂いている。地域密着型施設連絡会や地域包括支援センター主催のケアマネ、サービス事業者合同連絡会に参加している。町や関係機関のほか、生活保護の受給者の関係で、盛岡広域振興局との連携も図れている。		

〔評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、研修を定期的に行っている。職員全員が理解を深めて、日々の実践へとつなげている。	身体拘束廃止に関する指針を作成しているほか、ユニット合同の身体拘束廃止委員会を設置し、2カ月に1回開催している。身体拘束・虐待の研修も、スピーチロックを含め年2回実施している。玄関は夜間のみ施錠し、転倒防止のため、家族の同意のもと4名の利用者に、ベッドからの立ち上がりを察知するレールセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	入居者が安心し、生活ができるよう職員同士で話し合いを行っている。また、不適切なケアの段階で虐待の芽を摘み取ることができるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている入居者がいるため常日頃から話し合い、関係各所との連携を図り、理解を深めながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談から契約に至るまで、密に連絡を取り合いながら、疑問や質問を受け、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に得た意見や要望をカンファレンスや全体会議で取り上げ話し合っている。結果等については運営推進協議会や家族会等に報告し、意見交流の場を設けている。	利用者や家族の要望は、面会時に聴き出せるよう職員が働きかけている。毎年開催する家族会でも、感謝の言葉以外に意見・要望はない。家族へは、毎月事業所からの連絡事項に併せて、利用者担当職員から、一月の生活の様子を手書きでお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、リーダー会議で全職員の提案や意見を活かせる場を設け運営に反映させている。	毎月開催している全体会議、ユニット会議、リーダー会議で、運営等に関する職員の意見を聞いている。年2回管理者と職員の個別面談を実施し、年度末には社長との面談の機会を設けている。職員からの提案で、夜勤者の業務のうち掃除や洗濯を日勤に移動し、利用者と職員が一緒に作業し、利用者の自発性を促すこととしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各会議やヒアリングを通し、各希望を的確に把握し待遇改善に配慮しながら楽しく、やりがいをもちながら仕事に取り組める環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修の他、外部研修や各資格所得に向けた研修を積極的に参加できる機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や町の連絡会、地域のネットワーク作りや、意見交換しサービスの質の向上に反映されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報等、職員間で把握し、安心した生活をしていただける環境づくりを行い、その後も本人の要望等に応えながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族様の困っている事、要望に耳を傾け、その後も相談に乗り、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援、サービスを見極め提供を行い、その後も必要とされるフォーマル、インフォーマルサービス情報の提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の片付け、掃除等は入居者様と共に行っている。また、洗濯物たたみや洗濯物をしまうなど、本人が出来る事への声かけを行い、役割り分担にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初に前月の生活状況をお手紙にてお伝えしたり、面会時等には、家族と様々なお話し、相談をすることで、共に支えあう形を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会はもちろん外泊や外出等がスムーズに行えるよう積極的に支援をしている。また、本人の思い出の場所や行きたいところを、日々の会話の中より抽出し、ドライブや散歩により地域での生活を大切にしている。	家族や知人の面会は、多い方で月3、4回となっている。町の健康福祉祭は、昔馴染みの知人・友人と談笑できる機会にもなっている。お花見や足浴が出来る鶯宿温泉ドライブ、矢巾ひまわり畑、ラフランス温泉など、行ける時に出かけのことを心がけている。住んでいた地区の敬老会の記念品を、地区の方が持ってきてくれており、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく会話できるよう、職員が間に入り、話しの繋ぎを行ったり、入居者同士のかかわりが途切れぬよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となられた後も家族の相談等を必要に応じ受け付け、関係性を断ち切らないように保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を基本に必要な援助を行っている。希望に添えない場合でも、意向を汲み取り、希望に近い生活ができるよう努めている。	利用者との日々の関わりの中で把握した事柄は、連絡ノートやケース記録に記載、共有し、利用者の意向の実現や介護サービスの提供に繋げている。会話しない利用者が口にした歌謡曲の節を職員が聞き取り(河島英吾の歌)、カラオケで職員が歌い出すとその利用者が歓喜の表情を見せてくれるなど、利用者の思いに寄り添った取り組みを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基に、家族構成、生活歴を把握し、実際の生活の様子観察を行い、サービスの不足、改善点がないかを模索している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の健康状態、持病、歩行等を考慮し、個人の意向を尊重し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいて、スタッフの意見を聞いたり情報交換を行っている。ご家族の意向や主治医、訪問看護師の意見を基に、今後の課題を含めた介護計画を作成している。	入居時にアセスメントし、暫定的な介護計画を作成し、2、3週間様子をみながらカンファレンスにおいて職員の意見・情報を収集し、再度計画を作成している。利用者への計画の説明は難しいが、家族へはユニットの職員が説明し了承を得ている。3ヵ月毎に見直しをし、状態に変化あった場合には、モニタリングに基づいた計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護計画と連動するよう行っている。本人の生活での言動を職員間で共有し、計画の見直しの際にも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎の行事やそれに伴う外出の機会を設けている。入居者の状況に応じて、支援、サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのかかりつけ医は断ち切らない等の支援を行っている。また、地域の文化祭などへ作品を作り、出品したり、見学へ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の健康面について全職員が周知できるように、看護職員が繊細な記録を行い、通院対応を行い家族へ報告している。	入居前のかかりつけ医を継続することとしており、かかりつけ医への受診は家族が同行し、家族の都合が悪い場合は、職員が同行している。内科の訪問診療を利用している利用者もいる。歯科も、10名前後の利用者が訪問歯科診療を受診している。日々の健康管理は、常勤の看護師が担っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	荘内の看護職員や訪問看護師とで入居者の健康状態を相談しながら、職員全員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃の通院時から病院関係者と情報の交換をしている。また、入院した際は病院関係者、家族と相談しながら退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、主治医、訪問看護、本人、家族等と話し合いながら全員で方針を共有しながら支援している。	重度化や終末期についての指針を、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。現在、看取りを必要とする利用者はいないが、重症化した場合は、家族の意向で医療機関に移ることが多い。	利用者の高齢化に伴い、重度化等への対応を必要とする場合が増加していくと見込まれることから、医療機関や訪問看護ステーションとの連携や職員に対する重度化・看取りの研修等、所要の方策を講じていかれることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けたり、荘にあるAEDの操作の仕方を内部研修を通し勉強している。訪問看護師と24時間連絡体制をとっており、夜間の急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各有事の際を想定し、年2回の消防立会いの避難訓練の他、自主訓練として年4回行い、避難方法や緊急通報設備の確認を行っている。また、訓練時は近隣住民へも声をかけ、参加をいただいたり防災への関心に繋げている。	町のハザードマップでは、膝下程度の浸水地域に指定されている。年6回、避難訓練を実施し、近隣の住民へ参加を呼びかけている。夜間想定避難訓練も実施している。利用者の状況から、町の指定する避難場所に速やかな移動は難しいため、事業所2階への避難を想定している。非常用として、カセットコンロ、ご飯、魚缶詰、乾物ラーメン、水、反射式ストーブ、ヘルメット3個等を備えている。	地震、火災、水害、暴風等の各災害に応じた避難対策が必要なことから、災害ごと又は発生時間帯に応じた避難誘導の検討が望まれる。また、近隣住民への参加の呼びかけを継続されたい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を念頭に置き、個々の性格・生活背景等を理解・把握し一人ひとりを尊重し、日々の声かけ等を行っている。	利用者の尊重等については、入社時に繰り返し厳しく説明しており、介護労働安全センターから講師を招いて接遇研修も行っている。利用者への声掛けは、敬語としている。排泄介助や入浴介助の際には、他の利用者が見えないようカーテンを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から入居者とのコミュニケーションをはかり、会話等から本人のやりたいことに添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調に応じて生活のリズムや活動を提案し、その中から本人のやりたい塗り絵や歌、編み物等を各々の日常生活に合わせながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向や趣向に配慮しながら、身だしなみができるように支援している。また、汚れている服を身に着けることがないように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の中で、お手伝いをして頂きながら、毎日の食事に対し、味覚だけでなく、視覚や嗅覚なども使って喜んでいただけるよう、献立にバリエーションをつけ、季節の食材や行事食を取り入れている。	献立は、献立作成委員会で2週間ごと作成している。職員が調理し、状態に合わせてきざみ食等を提供している。職員は、利用者の食事介助や会話をしながら、同じ食卓で、同じ料理を食べている。調理を一緒にできる利用者は1名になったが、後片付けは動ける利用者が協力している。外食では、マクドナルドのハンバーガー、お花見のお弁当、ショッピングセンターのフードコートでの食事等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量の把握はチェック表にて共有をおこなっており、不足している方には能力や症状を考慮したものを提供し、食事形態についても考慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけにて口腔ケアを促している。また、一人ひとりの口腔状態を確認しながら、歯磨きや義歯洗浄の見守りや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	画一的なオムツ交換ではなく、個々の排泄パターンを把握した上で、声かけやトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援を行っている。一人ひとりの力に合わせ、パット、リハビリパンツの検討を行っている。	布パンツの利用者3名、リハビリパンツ使用の利用者は13名である。利用者個々の排泄習慣を把握し、適時にトイレ誘導している。病院から退院し、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もあり、一人一人の力に合わせ、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや水分補給にも工夫を行い、便秘の予防に努めている。レクではボール遊びや体操等を取り入れ、身体を動かすことで腸の動きを促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう、会話や歌を唄い、リラックスできる空間づくりをしている。個々の生活パターンに合わせて時間の調整を行っている。	入浴の準備は毎日行い、利用者は、週2、3回入浴できている。異性介助を拒否する利用者はいないが、職員配置には配慮している。入浴介助時は、利用者との会話から新たな情報を得ることが多く、介護ノートに記録し職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるように、落ち着いた環境の整備に努めている。個々の生活習慣に合わせて、ホールのソファや居室にて休息して頂き、希望に沿って、自由にお昼寝もできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが使用している薬を把握し、服薬の前には誤薬等がないよう、職員間と入居者にも確認して頂きながら服薬支援に努めている。また、申し送りや通院記録を通じて情報共有を行い、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、食後の片付けや洗濯たたみ等、役割りを持って頂いている。また、個々の嗜好品や好きな事を理解し、生活の中に取り入れ、楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩など、一人ひとりの希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援している。また、ユニット毎の行事を通し遠出の外出や外食も行い、家族にも協力をいただきながら支援している。	日常的な外出は、散歩、日用品の買出し、ドライブ等、一人一人の意向に沿って戸外に出る機会をなるべく多く作っている。温泉施設を事業所貸し切りとし、利用者全員が入浴するなど、外出支援に工夫を凝らしている。車椅子利用者も大型スーパーに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所で厳重に管理されており、外出時などで使用する際は、本人の希望を聞き、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話したり、手紙のやり取りができるよう、職員が寄り添うことで支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節の花を飾ったり行事での写真を飾ったりと、居心地よく過ごして頂けるよう、居場所の工夫を行っている。	各ユニット毎の、広い共用ホールには、食卓、椅子、ソファ、テレビが配置され、エアコン等で快適な室温が保たれている。壁面には、季節の切り絵や行事に参加した利用者の写真が飾られている。ユニット花では、利用者個々がそれぞれの意見を持ち、趣味を楽しみ、ユニット虹では、コミュニケーションを取れる方が少ないが、ボール遊びなど一緒にゲームを行なっている。安心・安全の確保のため、台所から利用者を見守る事ができる構造になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓際にテーブルと椅子を配置して、入居者同士で談笑されたりと、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や、家族の写真を飾ったり、お花を飾ったりと落ち着いて過ごして頂けるよう工夫をしている。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、床暖房が備え付けられている。利用者が持ち込んだ机、椅子、テレビが配置され、壁には、家族の写真や装飾品が飾られている。利用者の転落防止に低床ベッドが使用されるなど、快適な生活環境となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、自立した生活が送れるよう、安全配慮のうえ支援している。		